

令和4年度生駒市立病院管理運営協議会第3回会議録

- 日 時 令和5年3月17日（金）午後8時00分から午後9時45分
- 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター
- 出席者
 - (1) 会 員 会長 生駒市長 小紫 雅史
 - 副会長 生駒市立病院 院長 遠藤 清
 - 医師会等医療従事者 一般社団法人奈良県病院協会理事
 - 近畿大学奈良病院 病院長 村木 正人
 - 一般社団法人生駒市医師会 会員 山上 正仁
 - 公募市民 玉井 得雄
 - 佐野 いづみ
 - 岡島 保弘
 - 市自治連合会を代表する者 生駒市自治連合会 会長 森岡 文夫
 - 地元自治会を代表する者 東地区自治連合会 会長 伊藤 征史郎
 - 東生駒自治会 会長 杉本 真美

- (2) 事務局 【生駒市】山本副市長、近藤福祉健康部長、石田福祉健康部次長地域医療課長兼務、天野課長補佐、奥野病院事業推進係長、川口係員
- 【指定管理者】辻川看護部長、岸田事務部長、持田事務長

- 傍聴者 5名
- 会議の公開・非公開の別 公開
- 会議の内容

【事務局（市）】 それでは、ただいまから「令和4年度生駒市立病院管理運営協議会第3回会議」を開催いたします。本日は、お忙しいところご参集いただき、誠にありがとうございます。

会員の皆様にご出席いただいておりますので、生駒市立病院管理運営協議会設置要綱第6条第3項の規定により、会議は成立しております。

また、本会議は同要綱第7条の規定により公開としております。会議録作成のため録音させていただきますのでご了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは、本日の配布資料について確認させていただきます。

<配布資料の確認>

- 会議次第
- 令和5年度生駒市立病院事業計画書
- 令和5年度生駒市立病院事業計画書説明資料

以上3点でございます。

それでは、次第2「会議内容の確認」につきまして、当協議会は、市立病院の管理運営に関する事項について協議し、市民等の意見を反映させることで、健全な管理運営及び市民参

加の病院を実現することを目的として開催するものです。

8月に令和3年度の事業報告、11月に令和4年度の間接報告について報告させていただきました。本日は、新年度の市立病院の事業計画についてご報告するために開催させていただいております。

それでは、以後の進行は協議会設置要綱第6条の規定により、会長が議長となりますので、小紫会長よろしくお願いたします。

【小紫会長】 改めまして、皆様こんばんは。本日は年度末の大変お忙しいところにも関わらず、またちょっと雨がパラパラしてきましたけれども、生駒市立病院管理運営協議会にお集まりいただきありがとうございます。

市立病院もこの6月で9年目を迎えるということになります。私が市長に就任してすぐの6月に病院が開院したということで、1階のロビーのところで緊張しながらご挨拶をさせていただいたことを今でもよく覚えております。この8年の間に本当にいろんなご苦労もいただき、そしてコロナ禍という大きな試練もありましたけれども、病院をここまでしっかりと育てていただきました院長先生、他スタッフの皆様、そしてそれをしっかりと支えていただきました協議会の皆様、関係医療機関の皆様、そして行政職員ももちろんですが、本当に皆様に感謝申し上げたいと思います。

病院ということでマスクをしておりますけれども、議会でも3分の1ぐらいの方が外されというということで、少し世の中が目に見えて変わってきたところもありますし、5月8日以降、感染症法上の分類が5類になるということで、トンネルを抜けかけてるという感じもしますが、逆にそうなった時に、感染の状況だったり、医療体制だったり、どのような影響があるのかをこの2ヶ月弱の間に考えていけないといけないということもまた事実でございます。

そんなコロナ禍の大きなうねりの中で、今回、令和5年度の市立病院事業計画書について皆様からご意見をいただく機会でございます。コロナが一定の収束が見えてきた段階、そして次の市立病院の第一歩に向けての大切な1年になると思いますので、皆様ご忌憚のないご意見をいただきまして、市立病院の運営にお力添えを引き続き一層いただきますようお願いを申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、本日9時半を目途に進めていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願申し上げます。

それでは、案件に入りたいと思っております。令和5年度の生駒市立病院事業計画書につきまして、まずは概要説明があります。

【事務局（市）】 それでは、令和5年度生駒市立病院事業計画書についてご報告いたします。会員の皆様方に事前にお配りしましたが、資料は「令和5年度生駒市立病院事業計画書」

と「令和5年度生駒市立病院事業計画書説明資料」の2種類ございます。

最初に「令和5年度生駒市立病院事業計画書」をお願いいたします。目次をご覧ください。本事業計画書は、「1 医療提供計画」「2 施設管理計画」「3 組織図」「4 収支計画」の4部構成となっております。

事業計画の策定に当たっては、令和3年度実施状況調査報告及び令和4年度中間報告を経て、当協議会にて頂いたご意見等を計画に反映させた内容となっております。

また、「令和5年度生駒市立病院事業計画書説明資料」につきましては、課題等をどのように計画に反映させているかなど、内容がわかりやすいように説明資料として配布させていただいております。本日は、主にそちらの説明資料に沿って説明させていただきます。

1枚めくっていただきまして、右ページに目次がございます。さらにめくっていただきまして、1・2ページをお願いいたします。

説明資料の見方としましては、左端から病院事業計画、令和3年度事業報告、令和4年度中間報告、両報告を基に抽出された課題等を表記しており、右端が令和5年度事業計画となっております。

令和5年度事業計画で、抽出された課題がどのように計画に反映されているかが分かるように、課題に対して計画に反映している部分を下線表記しております。

それでは指定管理者から説明をお願いいたします。

【事務局（指定管理者）】 それでは、説明資料の1・2ページの2ページ事業計画欄をご覧ください。「診療科目」でございます。令和5年度からリウマチ科を新たに標榜し、17診療科で診療を行います。既存の診療科の医療内容の充実を目指し、常勤医師を確保し、専門外来の充実を図るとともに、より高次、専門性の高い医療機関との連携を進めます。

次に、3・4ページの「病床数」でございますが、救急患者の積極的な受け入れをはじめ、病床利用率の向上に向け、入院医療に対応できる常勤医師の確保、地域医療機関との連携強化による紹介患者の受け入れに取り組みます。

また、新型コロナウイルス感染症患者及び疑似症患者の入院受け入れのための病床については、国・県の動向や感染状況などを踏まえ、柔軟に運用を行います。

続きまして、5・6ページの「人員体制」でございます。常勤医師は、合計で26名を計画しております。看護師は外来部門が47名、入院部門が109名で合計156名を計画しております。

なお、これら医療従事者の確保、とりわけ、医師の確保につきましては、特に常勤医師が不足している整形外科等の常勤医師の確保、増員を図り、入院医療を充実させます。

また、医師事務作業補助者を増員し、医師の業務負担の軽減を図るなど、医師の働き方改革の取組として、引き続き、勤務環境の改善を行います。

続きまして、7・8ページの「患者数」でございます。一日平均患者数は、年度当初は、入院143.0人、外来229.0人から始まり、年度末には、入院149.0人、外来23

5.0人を目指す想定で、年間一日平均患者数が入院144.6人、外来245.0人です。入院・外来患者数の増加に向けた取組といたしまして、入院医療に対応できる常勤医師の確保、地域の医療機関との病病・病診連携の推進及び救急患者の確実な受け入れのほか、積極的に広報活動や医療講演会を実施します。

また、コロナ対策として、国・県の動向や感染状況などを踏まえ、発熱外来や疑似症患者及び陽性患者の入院受入の対応や、市と連携してワクチン接種を実施します。

市民への周知の取組としては、ホームページに加え、LINE公式アカウントでの配信、病院だよりの発刊といった広報活動の推進を、そして地域の医療機関への周知の取組としては、地域医療連携室による地域の医療機関への情報提供を推進します。

9・10ページをご覧ください。市立病院のコンセプトの「質の高い医療の提供」でございます。本年度においても、引き続き、安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、患者にとって最適な治療・ケアを行います。本年度の手術件数の目標ですが、全体で1,270件を目指します。また、診療科毎の目標値もご覧のとおり掲げており、分娩件数としては250件としております。産婦人科と小児科が連携することで、新生児、乳幼児に係る母子医療体制を整備・充実します。

また、導入予定機器として、電子カルテサーバの更新やPACS（医療用画像管理システム）サーバの更新等を計画してございます。

11・12ページをお願いします。「主要4疾病に係る医療体制」として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病について、提供できる医療機能や役割を明記させていただいております。

患者満足度の向上につきましては、入院・外来患者アンケート調査の実施やご意見箱の内容への対応、院内スタッフ対象の接遇研修の実施などを掲げております。

13・14ページをご覧ください。医療安全管理体制につきましては、市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指し、医療安全管理委員会、医療安全カンファレンス、医療安全勉強会を定期に実施し、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めます。

また、継続的に院内感染防止活動に取り組み、感染症のまん延期には、N95マスクの着用を徹底します。さらに、コロナ感染拡大に備えて、院内に専従の感染管理認定看護師を配置するなど、院内における感染管理をより一層徹底し、感染状況に臨機応変に対応します。

15・16ページをご覧ください。地域完結型の医療体制構築への寄与といたしまして、地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ります。

また、病診連携懇話会を開催し、地域医療従事者の情報共有、意見交換の場を提供します。具体的には、在宅支援機能の充実として、増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行います。

また、入退院支援チームの推進、市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、円滑

な入退院の推進を図ります。また、地域医療機関への医療教育プログラムの提供として、各種症例検討会や講習会を実施します。

17・18ページでございます。周辺の他の医療機関との連携として、医師会と地域医療の課題を共有し、顔の見える関係を構築することでスムーズな地域医療連携を推進します。また、地域の診療所との地域医療連携の推進のため、引き続き、MRI、CT、内視鏡及びエコーの紹介利用を推進します。

さらに、地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、紹介率35%、逆紹介率20%を目指します。

また、地域医療連携推進のため、地域医療連携室の専任職員が地元医療機関を積極的に訪問し、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行います。

19・20ページをご覧ください。救急医療の充実でございます。救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受入体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実を目指し、救急受入件数、2,000件、救急応需率95.0%を目指します。

また、市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き、関係機関と協議を行うとともに、救急患者の市内受入率の向上を目指し、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たします。

さらに、奈良県と情報交換しながら、北和小児科二次輪番体制に寄与します。

21・22ページをお願いします。救急受入体制として、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を引き続き整備します。特に整形外科等の常勤医師の確保に努め、当直・オンコール体制のさらなる充実を目指します。

23・24ページをご覧ください。小児医療の充実については、小児の救急対応、入院患者の受け入れ等小児二次医療体制の充実を図ります。

また、引き続き、北和小児科二次輪番体制に寄与します。

次に、「災害時医療の確保」でございます。大規模災害時において、傷病者の受け入れや医療救護に対応可能な体制を引き続き整備し、災害対策マニュアルに沿って現場スタッフや、地域住民も参加する実地訓練を行います。

次に、「予防医療の啓発」でございます。さらなる市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を医療講演会を通して提供します。特に、市民の健康づくりや疾病予防を促進するため、院内講演の充実に加え、自治会等各種団体への出張講座を積極的に実施します。

また、市民の幅広い年代層が健診を受けやすくするよう努めるとともに、乳幼児への定期予防接種を引き続き実施します。

25・26ページをご覧ください。「市民参加による運営」でございます。市民の意見の反映の仕組みといたしまして、入院・外来患者アンケート調査の結果、ご意見箱の意見及び対応について、ホームページでの公表、病院事業推進委員会や本協議会への報告など広く市

民等に周知します。

また、市民交流事業として、健康フェスティバルや院内コンサートなどの開催を予定しています。

次に、「環境に配慮した運営」はご覧のとおりでございます。

続きまして、本事業計画書の12頁の「2施設管理計画」をご覧ください。昨年度同様、保守点検項目や点検時期など細かく計画に明記し、施設や設備の計画的、効率的な維持管理を推進させていただきます。

なお、外部委託業務内容は、13頁の「3組織図」の右下に記載しております。

続きまして、「4収支計画」でございます。14ページをご覧ください。年度の間中期の9月末と期末期の3月末の収支計画を表記しています。

まず、中期の令和5年9月末時点での収支見積もりでございますが、一日平均入院患者数は、上半期の平均で141.1人、外来患者数は、247.4人としており、上半期の診療収入は、22億8,845万円を見積もっております。医業費用合計は、上半期で21億7,195万円と見積もっており、医業利益として、1億3,475万円を想定しております。また、上半期時点での経常利益として、921万円を想定しております。

次に、期末期の令和6年3月末時点での収支見積もりでございますが、一日平均入院患者数は、年間平均で144.6人、外来患者数は、245.0人としており、令和5年度の診療収入は、46億5,245万円を想定しております。医業費用合計は、43億7,396万円と見積もっており、医業利益としては、3億1,561万円を想定しております。また、令和5年度の経常利益として、5,025万円を想定しております。

以上でございます。

【小紫会長】 それでは、項目ごとにご意見をいただいきたいと思っております。なお、項目の最後に全体を通してのご質問であったり、聞き忘れ等を聞く時間を設けますので、まずは項目ごとに進めさせていただきます。

それでは1・2ページ目の「診療科目」について、ご質問等がございますでしょうか。

次の3・4ページ目の「病床数」、こちらの方はいかがでしょうか。

【玉井会員】 この病床数のところなんですけれども、この3ページの一番左のところの平成27年11月の、当初の病院事業計画の病床数は210床で、内訳にありますようにICU7床から始まって外科系84床となっています。令和5年度の事業計画ではトータルは210床ですが、各科の内訳の数字が異なっているというところで、この当初の数字と今の事業計画との数字の違いの理由をあまり認識できてないんです。おそらく医師の医療体制の問題ですとか、病床の需給関係だろうとは思ってますけれども、特に気にしてますのが、小児科が元々病院事業計画で20床に対して、今の事業計画では5床ということで15床の差が非常に大きいんじゃないかということです。

市立病院の設立のコンセプトが小児医療の充実ですとか、ちょうど前回の会議のときに確か小児科医師を増員して腎臓の疾患の専門領域を広げたという報告もありましたし、説明でもありましたように産婦人科・小児科の連携ですとか、あるいは北和小児科二次輪番と色々なことをされているので、小児科の数ってこの5床ではなく、もう少し20床に近づいてもいいのかなと思ったりするんです。もちろん需要と供給の関係も当然ありますから、そのあたりを含めて、この15床の違いのところ、その辺りと今後どのようにここは見ていったらいいのかなという、そこを教えていただければと思います。

【遠藤副会長】 ありがとうございます。まずこの病床数っていう形で書いていますが、特にここからここは小児科とか、ここからここは内科というようには厳密に分けていません。この部屋は小児科が使うのが主だよという話で、もしこの5床を超えた場合は、小児科というのは4階東病棟に作っているんですが、そこに新たに部屋を何とかして作っていくというような、小児科輪番の日は特に5床では足りない可能性もあるので、例えば内科の場所も少し融通できるような形で運用しています。将来的に小児科をいくつにしていくのかというのは小児科の医師が3人で、例えば20床というのはなかなか難しいと思うのと、小児科はどちらかという外来で勝負というか、入院する人数が季節によってかなり違いますので大体5床は確保しておく、そこから融通をきかせて、例えば10床近くなるかもしれないですけど、それには対応するというので、病院が5床しか部屋を取っていないということではないと考えていただければと思います。

【玉井会員】 今のお話ですと、必要性が生じてきたら一定柔軟に病床については対応できますというように理解をさせていただいたらよいということですね。

【遠藤副会長】 そう考えていただいたらと思います。専用病棟は専用のベッドの数に限りがあるので、そういうのもこれから見直して救急が増えてきてということであれば、きちんと置いておくようにはしたいと思います。

【事務局（市）】 玉井会員からのご質問の補足をさせていただきますと、当初の病院事業計画で小児科20床といいますのは、当協議会の前身の新病院整備専門委員会というのがあり、そこで病院の基本構想みたいな前身の計画があったんです。その基本構想を審議する中で、平成18年から19年当時、医師会の先生方から実績をいただくと、やはり新病院は20床の小児科ベッドが必要であるということになりました。その当時は、1年間に小児科輪番で1万人の患者数が出まして、おそらく子どもたちのマイコプラズマ肺炎があって、今は薬がよくなって安易に肺炎になる子どももいないので入院は減りましたが、その当時は結構ありましたので、そのニーズからいうと、旧生駒総合病院が小児科輪番に入りましたが閉院するということもあり、この大きな病床数になったという経緯があります。そこか

らは小児科の入院患者の需要は減ってきている状況になっております。補足説明としては以上でございます。

【小紫会長】 他に3・4ページ目でいかがでしょうか。

それでは、5・6ページ目の「人員体制」、こちらでいかがでしょうか。

【岡島会員】 発達障害を持つお子さんの医療機能が市内に少し不十分であるというふうな声を耳にすることがありまして、市外に通院せざるを得ない状態で、親子共々、特にお子さんの方が大変苦勞されてるような状態であるみたいです。公立病院としまして、発達障害に対応する医療機能をぜひ持たすべきであるというふうに思っておるんですけども、またぜひ考えていただけたらと思います。

【遠藤副会長】 小児科の部長がそちらの方にこれから少し力を入れたいというふうに言っていますので、まだ周知はできてないと思いますけれども、そのうちしっかりとしたものができるんじゃないかと思っています。

【森岡会員】 人員体制と次のページの1日平均患者数の増加に向けた取り組みとの関連で、やはり診療科目によって患者数が大きく左右されてくると思うのですが、言われているようにいろんな取り組みをされていますけれども、入院患者や外来患者を増やすには診療科目をきちっと整備するということが求められるという意味では、大変厳しい状況ではあります。例えばここで整形外科だとか脳神経外科の常勤も含めて確保できると、入院患者や外来患者も増えてくると思うので、その辺については引き続き努力をすることが大事ではないかなと思うのです。今言いましたように、医療従事者の確保が難しいのはわかっているのですけれども、その点についてはどうお考えでしょうか。

【遠藤副会長】 まず、整形外科なんですけど、4月から近畿大学奈良病院の整形外科から常勤医師1名が来ますので、その医師を中心に整形外科の救急や手術をしていくということで、今、整形外科分野の救急が弱いので、ここは少し充実するのかなと思っています。

あと、脳神経外科の話をしてますと、今常勤医師1人体制で救急もしていますが、なかなか手術であったり、そういう少し高度な治療が必要だったりすると対応できないということで救急を断っている時もあるのですが、これに関しては近隣の医療機関と今話をしています。例えば、当院でいつでも検査できますので、救急で取って検査をし、手術等が必要であれば他病院で見てもらおうような、今までなかったような病病連携に今話し合いをしているところです。この2つの科に関しては4月以降、希望的観測かもしれませんが、少し良くなるんじゃないかと思っています。

【小紫会長】 他にこの5・6ページでいかがでしょうか。

【村木会員】 令和6年度から医師の働き方改革が始まりますが、医師の追加勤務原則960時間、ひと月80時間以内となっていると思うんですが、特に産婦人科や小児科であったりしますと、超過勤務が多くなってくると思うんです。そういったことは今後どういうふうと考えられておられますか。うちは産婦人科に関してはお産がちょっとできないのではないかと考えています。これはもう市民がどうのこうの言おうが、政府が決定事項として出しますので、これ破るわけにいかないのです。そういう立場の中で生駒市立病院はどういう方向性でやっていこうと思っておられますか。

【遠藤副会長】 皆さんの仕事でも働き方改革があると思うのですが、医師の方にもその働き方改革の要求があって、実際にどのぐらい働いているのかという調査から始まって、他の医療機関で働く時間も入ってきますので、その管理というのをかなり詳しくやらないと危ないんです。

だから、週休2日や週休2.5日という勤務の先生方がおられたわけですが、そういう形ではなくて、きちんとそこでお休みの日に働きに行ってるのか、あるいは家で休んでいるのかの管理をしっかりしようということをやっています。方向性としては、基本的にこれしかできませんということをやまず皆さんに知ってもらうことで、当院は超過する人がと決まってくるので、その人を中心に働き方も相談していくという形になると思います。当院はまだ人数が少ないもんですから、少しずつ個々に、例えば夕方診療の日はもう昼から出てくださいというようなフレックスタイム的なことを導入していけばうまくいけるかなと思っています。

【小紫会長】 他に、5・6ページでいかがでしょうか。

それでは、7・8ページの「患者数」、こちらはいかがでしょうか。

【岡島会員】 市民周知の取り組みの話になるかと思うのですが、LINEアカウントがいつも言ってるように、報告ごとに200名ずつぐらい増えてるような状態でとても周知が届いてるというか、皆さん登録していただいているんだなというのが見えて今でも約1,400人登録されているかと思うんです。公立病院としましてこちらの市立病院のホームページがすごく充実されておりますし、見やすくなってきているかと思うんですが、生駒市のホームページの方を見てみると、関連機関としては文字のリンクはあるんですが、下の広告バナーの他病院の方が、結構目立ってしまってるような状態で、大規模災害とかにおいていろんな活動というか、いろいろ今後体制を整えていくということに関しましても、市のホームページでしたら今この一番トップに災害とか怪我とかいざという時のページがありますが、その中でも市立病院に関するものは何もないんです。公立病院としまして、生駒市の

方でも市立病院に対するこういうことをしてるという見える化というものを市民の方にしただけようをお願いしたいなと思ってるんです。

市民も市立病院が生駒にないということで立ち上げる活動をずっとしてきたわけですが、もう既に立ち上がり、今このようにたくさんの診療科があって、特に小児科等もある中で、今度は我々市民が広告塔じゃないんですけども、こういうのが生駒にあるということを知ってもらって活動をしていかなきゃいけないと思います。生駒市にも広報活動をとっても盛んにされてる方、特にフェスティバルもあったと思いますけれども、そこにたくさんの生駒市の市民のパワーを感じる方がたくさん屋上でいろんなものを売ったり、いろんな声を掛け合ったりしてるような姿を見てますとその方々共に私も含めて、もっと市立病院のことをアピールできるようなものを習得していけないのかなというように考えてるわけです。

この前、院長のコロナに関する講演を聞かせていただきましたが、あれもとても他の講演を含め、すごく良い講演をされてると思います。ただ、時間の関係などがあって見に行きたかったけど見れない方というのも多々聞きます。そういう方に向けて、権利等もいろいろあるかもわかりませんが、例えば、動画のアーカイブを残すとか、もう少したくさんの方にこんな講演をやってるというのも何かの形で聞くことができればいいのかなど思ったりするのです。市立病院である以上、病気したら治す。治しに来る場所であることはもちろんですけども、ここにあることに対する安心とか不安を取り除ける場所というふうにも思っているのですが、ただそれが逆にちょっと南北の端の方になってしまいますと、市立病院がここにあるということが薄れていたり、知らない方もおられたり、どうやって行ったらよいかということと言われる方もよく耳にします。小児科も充実してきているわけですので、お子さんが病気になったときに慌ててこられる初めての保護者さんが途中で迷子にならないよう、今ホームページを見ればアクセスできるんですけども、携帯を見ながら運転というのなかなか難しいものがありますので、せっかく国道も整備されてる中で、市立病院の場所を看板でわかりやすくなるよう市としての努力もまだまだ可能かなと思っております。お金のかかることばかり言いますけれども、そういうことで広告に対する意見というか市民に対する取り組みへの意見というふうに考えております。

よろしく申し上げます。

【遠藤副会長】 いろいろと取り組んでいっておりますが、まだまだ足りないもので、そういう意見を言っていただいたら反映できるかなと思っておりますのでどんどん言ってください。災害に関しては、ついこの間、災害訓練を院内で行いまして、もう一度院内の動線や備蓄に関して確認し合って、備蓄がもっとできるんじゃないかとか、ここをもっと使えるんじゃないかとかいうことを含めて、また災害に対する勉強会も院内でやりましたので、定期的なこういうことは必要なんだなということをもみんなでまた再確認し、災害に関しての訓練も以前やりましたけれども、地域と大がかりなやつをやりたいと思っています。いわゆる

コロナも一段落したところで、来年ぐらいには何とかしたいなと思っています。

【小紫会長】 事務局の方はどうでしょうか。

【事務局(市)】 ホームページの方は確におっしゃる通りで、早速改善したいと思っています。広報の方は、4月号から病院のスタッフにフォーカスした特集を病院の広報の方に協力を仰ぎながらさせていただいております。また良いアイデアがありましたら採用させていただいて、どんどん市としてもPRしていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

【小紫会長】 今、コロナ関係の情報がホームページの一番真ん中にありますが、もちろん一部残るんですけど、その辺りのレイアウトも変わってくると思いますので、その時に関連施設をチェックしないと出てこないとか、いざという時に出てこないとか、その辺の機能をしっかり改善していくということ、もう一つ言えるのは3月議会がありますけれども、来年、生駒市の方でLINEの機能拡充ということで、生駒市のメール等、周知の方法として使っているんですけども、コロナのワクチンの関係もありましたのでLINEに関しては2万人を超えるお友達がおりまして、それをそのまま移行できると思うんですけど、そこにそのいろんなコロナ以外の機能も拡充していく中で、その中に市立病院の情報の方を入れることができるのではないかと思いますので、色んなやり方を考えていきたいと思っています。それでは、他に7・8ページでいかがでしょうか。

【山上会員】 事業計画なので、あくまで計画だろうとは思いますが、外来患者数は実際のデータとそんなに変わらないと思うんですけど、入院患者数が年間平均144.6人を予定しておられますが、実際3年度は3月147.2人と、これはコロナの方かと思うんですけど、何かこの数字を出された根拠はございますでしょうか。

【遠藤副会長】 基本はコロナも入ってますが、先ほど言ったように4月から整形外科の先生が常勤で来られますので、整形外科を見てるとやはり圧迫骨折とかで例えば3週間入院になるようであれば、多分10人から20人ぐらいは上乗せできるのかなというところがあります。あと15人ぐらいはみんなで頑張るしかないと思いますが、20人は本当に整形外科の方で上がるのではないかと、あと先程も言ったように、脳神経外科も救急を取れるようになれば、他病院との連携で送らないでいいやつは当院でみればいいので、そういう救急の充実でプラス10人ぐらいという感じで計算するとこの辺りになるかと思います。

【小紫会長】 他に7・8ページでいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、9から14ページまであるんですけども、「質の高い医療の提供」ということで、

こちらはいかがでしょう。

【伊藤会員】 9・10ページで導入機器とあります、令和4年度は大腸ビデオスコープと腎盂尿管ビデオスコープを導入され、令和5年度の導入予定機器というところで、四つあるんですけど、この導入という言葉ではなく各四つとも更新と書いてあるんですね。これは、プログラムを変えとか、ソフトを変えとかそういうことかなと思いつつ、新しく買われるという意味なのでしょうか。

【事務局（指定管理者）】 これは開院当時から入っております電子カルテのサーバであるとか、胸の写真を撮った静止画像のデータ、エコーや心臓カテーテル検査の動画です。それぞれのサーバが全部8年目になるので、全て更新時期にきております。心電図もデータを全部残してますので、そのサーバの更新で約1億円かかるんですけど、これを一応、本年度に予定しております。

【伊藤会員】 我々としてはこういった導入機器というか、本当にこれは病院の魅力ですし、またお医者さんもこれは非常に魅力だと思います。非常に私、毎回この導入機器を楽しみに見てますので、できるだけ良いものを入れていただきたいと思っております。

それから二つ目ですが、最近家のポストに市議員の方のリーフレットが入っておりまして、市立病院のことが書いてありました。好意的だったと思うんですが、高く評価されていて、現在、市の病院機能のバージョンアップを計画中だと書いてあるんです。何をバージョンアップされるのか、何を考えておられるかなと思って、質問です。

【遠藤副会長】 病院機能評価のことでしょうかね。第三者機関に病院を評価してもらうという試験なんです。その試験を受けるんですが、去年から約1年かけて試験勉強をしてるところで、試験が今年の8月にあります。それに通らないと恥ずかしいですので、病院のいろんなニーズに合ってるのか、感染と安全というのが中心になりますが、患者さんへの配慮であったり、そういうのを第三者の目で厳しく評価される、というのが機能評価なんです。当院はまだ受けてなかったのが今年初受験で、バージョンアップではないんですけど第三者機関に評価してもらうということです。

【小紫会長】 他に9から14ページまでで、いかがでしょうか。

【佐野会員】 分娩件数がすごく増えてるなと思いつつ、令和3年の164件から、今年度まだ1月までの参考値で230件増えてたので、すごくいろんなことが充実してるのかケアがなされてるのかなと思いつつ、本当に数字にはしっかり出ると思うので、このところはすごく評価しています。

それに引き続いて、産婦人科と小児科っていうことで、小児科の方で結構生駒市とか多分言われていると思うんですけど、病児保育や病後児保育がなされてなくて困ってらっしゃる親御さんがたくさんおられると思います。そこのところを病院の方で何か市とかと一緒に取り組んで今から計画されているのではないかと思っているのですが、どのようにお考えでしょうか。

【遠藤副会長】 個人的ですけども、未来のための医療をするというのが大事だと思っているので産科・小児科のセンター構想を、センターというとし少し大げさですけども、しっかりこの生駒地域というか、ここでは十分な産科、安全なお産ができて、小児を医療的にしっかり育てていく、そういうことができる一つだけではないですけどその中の一つの拠点になりたいと個人的には思っております。今言われた病児保育も病後児保育も、駅も近いですし、非常にニーズが高いと思いますが、病院の中にスペースがなくて、周辺の建物であったり、横の駐車場であったり、市の職員の方にもお願いしていろいろ交渉もしてるんですけどなかなかうまくいかなくて、実際それがあればいつでもできる体制にあるんです。小児科も3人いますし、本当に実はやりたくて仕方がないというところで、やりましたという報告ができればと思っております。

【小紫会長】 市役所の方の宿題でもありますし、今の土地とか建物とか相手がある話でもあるんですけど、非常に前向きなお話をいただき、病児保育もそうですね、さっきの発達や学習障害とかいろんなお母さんとかお父さんとお話しますが、そのあたりのニーズはすごくあります。

さっきの産科・小児科の産後ケアだったり、産後検診だったり周産期センター等のお母さんや家族のケアなど、子育てのとこなんかテレビを見ているとお金をどれだけ給付するみたいな話ばかり出てきますけど、またそういうような部分とかをしっかりときめ細やかにやっていかないといけないなと思っております。院長のお言葉も今ございましたので、市としてもどういった形でやれるのか考えていきたいと思っております。

【村木会員】 14ページのマスクなんですけれども、病院、あるいは医療施設、介護これに関しては我々のところでもマスクはもう着用ということで今後もしばらくやっていこうと思っております。事業計画ですので今日の時点でこれしか書けないと思ってるんですけども、同じ医療機関としてマスク着用は公共機関なので義務というふうにはできないはずなんですけれども、基本的にはマスクを着用して全員が医療に当たっていただければと思います。

【小紫会長】 病院の患者が来たときにマスクをしない人がおられたら、「つけてください。」という指導をされているということでしょうか。

【遠藤副会長】 一応、医療機関ではということの中には、その患者側のという理解もありますが、ただ無理強いをして押し問答になるようなことでは少し困るので、そこまではするつもりはないんです。

【小紫会長】 呼びかけや掲示くらいはするということですね。
他、14ページ目まででございますか。

【玉井会員】 接遇と申しますか、この患者の声の反映ということに関してなんですけれども、これまでの会議の報告でもそうですし、今日の資料の中にもございますけれども、市立病院では患者アンケートの調査の分析をきちんとされたり、ご意見箱の内容に対応して病院のホームページで公表したり、院内でフィードバックしていただいているということで、前回のところにも報告がありましたけれども、非常に高い評価になってるというので、私もそこはそういうふうには受け止めております。従って、引き続きこういう市民目線での対応をお願いしたいと思うんです。ただ一方で、例えば今でもそうですけれども、インターネットでも病院に対する口コミとか評判とかがやはり出ています。

見た範囲では、あのスタッフの方の対応が非常に優しく丁寧で説明はわかりやすいというような声が多くありましたけれども、その一方で言えば、極めて辛辣な表現で、病院の医師やスタッフの対応について、やはり書き込みが見受けられました。

ネットへの書き込みについては、非常にその功罪というのはいろいろあると思いますし、私自身も個人的にここの病院に対して持つ印象とネットに出てくる悪口的なところとマッチしませんので、そのままそっくり受け止めてはおりませんが、やはりこういうふうな声もあるということを受けとめつつ、例えば接遇研修のときの題材で生かしていく必要があるのかなという気もしました。そこで、接遇研修を院内や徳洲会グループの中でされる時にどのような題材で、具体的にどのようにされてるのかを教えていただければと思います。

【事務局（指定管理者）】 接遇の研修に関しましては、新入職員が入ってきた時に外部からの講師の方を招いて研修をするということがございます。先ほどから言っていたように、当院では退院する患者の年間通じたお声をいただいております、ご意見をありがたくお受けしてるんですけれども、やはり問題なのは中に厳しいご意見を書いていただく方がいらっしゃいます。そこにつきましては、お名前を書いていただいている方には必ず電話訪問をさせていただいて、所属の看護師長の方から電話訪問をさせていただいて、もう一度お話をお伺いさせていただき、その内容につきましてはその部署で問題共有できる部分についてはそれをしますし、全体で共通するようなことであれば全体で情報共有しますし、もちろん三役はタイムリーにその情報共有を行っているところです。今まで看護のことにつ

きまして、よほど指導しないといけないというようなことは私の中ではちょっと経験はしておりませんので、もしそういうことがあれば、個別にどういうことが問題になってるのかを考えていかないといけないとは思いますが、院内の接遇委員会のところでも取り組んでおりますので、今後も研修というところになりますと具体的には、今現在は新入職員に対してというところでやtingることぐらいなんですけれども、検討していければと思います。

【小紫会長】 他に、9から14ページはこれでよろしいでしょうか。

また何かあれば、最後確認しますので、それでは15から18ページ、この4ページで何かございますでしょうか。

【森岡会員】 15ページの新病院のコンセプトというか、地域医療の中でどういう役割を果たすか、生駒市として市立病院あるいは地域医療の体制の中でどうするのか、その辺の体制を市としても病院と一緒にあってどういう地域医療を育てていくのか、そのためにこの病院がどういう役割を果たしてるんだということを市民の皆さんにももう少しわかりやすい形で示していく必要があるかなと思います。

防災の問題も絡んで、生駒市以外の人たちが、近鉄電車を利用して、通勤の途中や仕事に具合が悪くなったんで帰りに寄ってみようという意味で言えば、非常に駅のすぐ近くにあるという立地的な面もありますし、大規模災害で津波等を含めたら河内平野が非常に低いところにありますので、一度水に浸かって非常にどうにもならない状況になると、大阪から避難してくるといったところに立地しています。防災の問題を一つ取ってみても、ただ単に地域医療だけでは済まない。私は、一関市に東北の震災のときに訪問させてもらって、海沿いのところが壊滅していくところを見てきました。そういう意味で見ても立地的な大きな意味を成していると思います。

あと、大規模災害のときは2、3日、防災本部にしても、なかなか十分に機能しないという中で医療体制は緊急に回していかなければいけないという意味では、緊急の中で柔軟な対応をしていくということが防災も含めて、患者に対しても考えておく必要があるんじゃないかなと思います。院長も生駒市の病院の位置と役割というのは以前からもおっしゃっているように思いますので、ぜひその辺も含めて発展をさせてもらって対応ができるように頑張っていたいただきたいなと思います。

【遠藤副会長】 災害については、定期的な備蓄等のチェック、それから職員の安否確認アプリを導入しまして、災害時に職員を集めるという形またはその職員が被災していないかということをしつかり確認できるようなアプリを導入していくということになりましたので、災害に対してもまた市とやっいていこうということです。

あとは病院の方向性としては先ほどからもう皆さんの意見の中にいっぱい出てる、例えば病児保育もそうですし、やはり一般病院でなかなか手をつけにくいところをやるべきで

はないかなと思っていますので、こういう協議会があって、そしてその市民のニーズに合う医療を作っていくというのが一番大事なのかなと思っていますので、ご意見を本当にここで言っていただくのが一番いいかなと思っています。

【小紫会長】 生駒市としても今院長がおっしゃいましたけど、もちろん純粋な医療については県がかなりリーダーシップをとってるところがあるんですが、先ほどの防災、あとその介護福祉、このあたりはまさに生駒市自身もすごく責任を持ってやっておるところでもありますし、その防災と介護福祉やこの医療とか、医療ももちろん市立病院だけではなくて市内の病院もしくは市外の関係が入ってくるかもわかりませんが、防災で言えば令和5年度は生駒市も大規模地震、テレビのニュースで南海トラフ地震の話がちょっと前まで30年で6割と言っていたのが、7割、8割とどんどん確率が上がっています。もういつ起きるかわからないぐらいを前提で考えた時に、市役所自体の準備も必要ですけれども、まさにこういう状態をどうしていくのかという話も当然その中に入っていきます。先ほども申し上げましたが、医療と介護福祉の連携ネットワークっていうのは、市内の病院診療所の皆様と介護福祉関係の方も来ていただいて、感染症の対策とか振り返り、それをどう生かしていくかっていう話もありますし、病院から退院する時に地域の介護福祉だったり、どのように繋げていくのかというような検討であったりとか大変皆さん熱心にご議論いただいております。市民の皆さんの関係すること、生駒市が今力を入れて頑張っていること、医療との関係というところはしっかりやっていくということと、今院長がおっしゃっていただきましたように、市立病院としての役割もありますけれども、市内の近畿大学奈良病院はもちろん、他の病院と診療所、生駒市のトータルとしてのその医療の力をしっかりと上げていくことで、市民の方が市外で受診していたりなどを、より市内で市民の医療ニーズに応じていく体制を作っていくとか、コロナの時とかまさにそういう対応を市立病院でやっていただきました。

市民のニーズ、これを単に答えるだけだとその経営っていうところを考えていけないので、そこはさじ加減というかバランスが必要ではあるとは思いますが、やはり市民ニーズがどういうところにあって、それに生駒市全体で見た時に受け皿がまだないところを率先的にやっていくというようなこと、このあたりも公立の病院ということでしっかりとお願いをしていきたいと思っています。このあたりがまさにこの市立病院の立ち位置であり、今頑張らせていただいているところでございます。

他に何か15ページからでございますか。

【伊藤会員】 17・18ページの地域の医療機関との紹介率と逆紹介率のところ、18ページの左側では今年の1月までの実績で紹介率28.0%、逆紹介率が12.9%に対して、令和5年度の事業計画では紹介率が35%、逆紹介率が20%と非常に高く頑張っておられると思うんですけれども、一般的にこういった公立の病院の平均的な紹介率、逆紹介

率は世間的にどのくらいなのでしょう。

【事務局（指定管理者）】 この規模での病院の紹介率っていうのははっきりわからないんですけども、地域支援病院とかっていうところになってきますと、紹介率は45%であるとか50%っていうところ求められます。ただ、そういった病院に関しましては、外来の制限というのがありまして、新規患者は紹介状がないと受け付けませんとかいうようなルールのもとでやってるんですけども、当院におきましてはどんな患者でも受け入れるということからスタートしておりますので、その最初のステージがちょっと違うということが挙げられます。なので、今回紹介率が高くなってるのは、令和4年度コロナにおいて病院の認知度が上がった中で28%というところは、コロナの患者を受け入れた中で紹介率ということになりますので、紹介なしの患者が多数おられた中で、コロナでたくさんの初診の患者が来られた中で割合のところ、今後コロナがなくなったときに今までの紹介いただいた患者が、初診の中でどのくらいいるかというところは実際認知された状態で受け入れれば35%ぐらいまで上がってくるんじゃないかという目測のもとで上げさせていただいておりますので、高い低いというところはちょっと同規模の紹介率をまだ把握できてませんが、決して悪い数字ではないのではないかと、徐々に上がってきているというふうに解釈していただいたらいいかなと思います。

【伊藤会員】 悪い数字と言ってるんじゃないくて、非常に高く大丈夫かなと思っているくらいです。

【小紫会長】 紹介率35%逆紹介率20%というのは結構前から目標としては掲げてるんですけど、なかなかコロナ等もあって達成しきれていないのですが、少しずつ伸びてきているということで、医療連携登録医とか協力医療機関連携施設とか、病診連携懇話会をするという話も出ておりましたので、しっかりとこの目標を目指してやっていただけたらと思っております。

他に18ページまでで、よろしいでしょうか。

それでは、次に19から22ページの「救急医療」のところよろしいですか。

【杉本会員】 こちらの救急医療については今までも断らないという姿勢のもとで、どんな方も受け入れていくということで良いことだなあと思ってるんですけども、私東生駒の自治会でいつも生駒市立病院へのご意見ご提案という紙を回しまして、今回はこの救急車のサイレンが大きすぎるというお声があります。特に夜ですね、年間通すと結構頻繁な数の救急車が来ていて、サイレンはとても大きく感じる人がいるんじゃないかなと思っています。それについてはご配慮されていたり、ちょっと離れたところからサイレンを消していらっしやったりとか、そういうことがあるのかもしれないんですけども、やはりそれについ

て意見があったので、どんなふうを考えて、今後どのようにされていくつもりなのかを教えてくださいいただければと思っております。

【遠藤副会長】 当院は救急車を受け入れる側なので、ただ東生駒駅前の交差点を渡るときは危ないのサイレンがいますと思いますが、越えてからは消してるようなことが多いと思います。病院のそばまで流してることは少ないような気がします。

【小紫会長】 三、四年前にもそんな話をしたんですけど、あれは法律で決まっているので基本的に消せません。消したら違反になる類のものです。交通法規などの特例が認められているということもあって、サイレン等できちんと安全確保しながら行かないといけないというのがあるんですが、とはいえ、交差点などは鳴らすんですが、もうここから先は大きなサイレンを鳴らさなくても安全を確保できるということで、そこは適宜運用をしているはずではありますので、すみませんがご理解をいただかないといけないところかと思えます。

交差点や交差点以外でも交通上の危険性があるというところはきちんと鳴らさないといけないし、鳴らさないことの方が問題があるということで、安全面が問題ないところは消防の方がきちんと配慮していると思います。消防の話、事務局で追加できることありますか。

【事務局（市）】 消防からは、市立病院ができた頃、極力地域の方々の迷惑にならないような形で、その法定的なところは守らないといけませんけれども、市立病院の南側の直線道路は前に対向車も車もないというときにはサイレンを消したり、もちろん市立病院の敷地に入る時もサイレンを消すというような形で、その辺りは最大限の配慮をし、救急車を運転していると聞いております。

【小紫会長】 実は、病院周辺以外でも、自分の家に救急車が来るのが気を遣うからサイレンを止めて欲しいという方が多いらしいんですけど、やはりそれは周辺状況で、ある程度ここから大丈夫というときは消しますが、家の前まで危ないというときはそこまで鳴らすと、ケースバイケースで配慮しているということをお伝えいただければと思います。

他に、23・24ページでございますか。

【玉井会員】 非常に市立病院の救急医療の受け入れについて本当に頑張っておられるというか、この受け入れの件数にしても、非常に高いと思います。

この救急の受け入れについて、24時間365日頑張っただけっていうのは市民として非常に心強いというふうに思っています。現実的に、特に令和4年度については、前回の第2回会議のときもありましたけれども、非常に搬送件数が多いということで、この救急患者受け入れられたその内容を例えば分析したときに、今年度の場合は、受けられた患者さんの状況で言えば、どういった特徴がありますか。やはりコロナやコロナに起因する要因

というのが特徴というふうなことになるのでしょうか。

【遠藤副会長】 今の質問で、発熱のある患者さん、発熱っていうのは例えば胆嚢炎でも、虫垂炎でも、肺炎でも、コロナでも、みんな熱が出てくるわけですが、熱があるだけでやはり救急が取れない状況があったと思います。周辺の病院もだいぶコロナ対応をしているのですが、コロナの入院は取っても救急までの対応はなかなか難しいこともあって、その場合、とにかく見込まれると市立病院に行けば入院もできるし、それ以外でも何とか対応するというので、おそらくそれで多かったような気がします。今だからだいぶコロナというか発熱患者もそう多くないので、少しずつ落ち着いてはきています。

【玉井会員】 例えば救急の応需率で見ますと、例えば令和3年度が88.5%ってなっているのが、令和5年の1月までの今年度で言えば80.0%ということで、要請件数が非常に多いですから応需率が落ちるっていうのは仕方がないことかなというふうに私自身は思っているんですけども、それでも受け入れ件数は令和3年度の1.5倍近い数字を示しているということで、この救急の現場の方が医療体制含めて、そのあたり現場の実態ってどんなものなのでしょうか。

【遠藤副会長】 実態は、もう本当に来る者拒まずという形でやるしかなくて、当院の課題ではありますが救急を束ねる医師が今おりませんので、その日の当番が2名の看護師体制、救命救急士1名の3名の体制と医師2人体制として、あとは全部検査、薬剤部という、全部体制を整えてできる限り対応していますが、この応需率が下がる理由にもなるんですが、やはり救急が立て込んでくるとどうしても取ってはいいいけど見れないでは危ないですので、そこで少し断ったり、当院はコロナ病床があったためにだいぶ病床が減ってましたので、満床に断った場合もありますし、そういう意味でこの応需率になってるので、悔しくて断った場合もこの中にあると思うんですけど、現場をもうちょっと充実させることもできるのかなとは思いますが、やはり救急をこれだけやっているとある程度忙しいのは仕方がないなと思ってます。

【小紫会長】 23・24ページ、他にございませんか。

それでは25・26ページの「市民参加による運営」はどうでしょうか。

最後の27ページの収支の方はどうでしょうか。

それでは一応最後までいきましたけれども、全体的とか言い忘れなどございましたらいかがでしょうか。

【杉本会員】 診療科目のところ、受診しても担当医がいないことが多いという意見で、そのために診療科目を減らすべきではないかという意見が一点あるんですけど、まずこれ

についてはいかがですか。

【遠藤副会長】 救急か時間外の話でしょうか。午前中だと内科から始まってほとんどの科があるので、眼科とか耳鼻科だとありませんが、例えばお昼からであったり、または5時以降だと夕方診療の担当医が内科系だったり外科系だったりするので申し訳ないんですが、そこはこれから夕方診療も、先ほど働き方改革もあるのでちょっと難しいんですが、充実させるのがいいのかどうかというところもあって、検討させていただくということになると思います。

【杉本会員】 23ページのところに「疾病予防機能の強化について」ということで、いろいろなオンライン形式の医療講演会の定期的な開催とかがあって、実際私もコロナの時に参加したことがあるんですけども、そのときに先生がおっしゃったのは、コロナに対しての予防策というか改善策に漢方の紹介をされてたので、3種類くらいの漢方があるって、そういう選択肢もあるよということをおっしゃってまして、とても私としては興味深く、聞かせてもらってました。何が言いたいかと言いますと、この内科や他の科にもあると思うんですけども、実際のその漢方とかに関する東洋医療みたいなそういうものの需要っていうのは今後上がってくるのではないかと私は考えています。外来患者や入院患者にも漢方診療をしたり、そういうものを処方するという、いわゆるその西洋療法のお薬っていうものとの併用または代替としてそういうものを使っていくというようなことを見た感じではされてるようには全くわからなくて、ただその講演会を聞いたので私は知ったのですが、今後もし、内科であるとか他のところでも実際にその漢方とかという代替療法を使っていけるのであれば、そういうのもアピールとか打ち出すとか言っていけたらよりいいのかなと考えたんですが、その辺りはどうでしょうか。

【遠藤副会長】 本当にいろんなニーズがありまして、私達のグループ病院が75グループぐらいありまして、その中にはすごい漢方の大家みたいな人もいますので、そういうご意見があれば、例えば月1回来てもらったり、また講演してもらってということも可能だと思いますので、またそういった意見を反映できるかどうか考えたいと思います。

【杉本会員】 設備に関しての質問なんですけれども、バス停を病院の外側にしてほしい、院外の人でも利用できるようにしたらどうかという意見や、病院のモーターの音が大きすぎるという意見、それから、病院の周りの草木が余分すぎるのではないかと、そういうものの手入れに無駄なお金をかけているのではないかと。あと、隣に広いモータープールがあって、市立病院の方が使っているのであれば綺麗にした方がいいんじゃないかというご意見がありました。

【事務局（市）】 バス停に関しましては、今、コミュニティバスが病院内に入っておりますけれども、当初、奈良交通株式会社と協議し、病院の前にバス停が欲しいということをお話したのですが、東生駒駅からあまりにも近すぎるということでした。それでも、設計をしていただいたのですが、バスの半分ぐらいが道路に出てしまい渋滞が起きるということで、そこはもう諦めてほしいということがあり、コミュニティバスを市の方で出し、病院の敷地内に入って、そこで乗降していただくという方法しかないという事情・経緯がございます。

それからモーターにつきましては、確かに開院当初すごく音がしておりましたので、インバーターをその後取り付け、極力小さくという形でしておりますし、使用していないエリアは自動的に制御する形で、特に深夜等、極力騒音が出ないように配慮させていただいております。

それから敷地内に草木が多いということですが、建物に対する緑化率というものがあり、それをクリアする緑化面積というものを設置しなければならないということがありますのでこういう形にさせていただいております。

以上でございます。

【小紫会長】 他にどうでしょうか。全体的な話とかありますでしょうか。

それでは、ありがとうございました。毎回本当にいろんなご意見をいただいて、私もいろんなことを学ばせていただいております。今いただきましたご意見を踏まえ、しっかりと運営していくと同時に、「令和5年度生駒市立病院事業計画書」につきましては、この後、市議会において報告させていただく予定をしております。

それでは、最後に事務局から連絡事項等ありますでしょうか。

【事務局（市）】 皆さんありがとうございました。

第4期生駒市立病院管理運営協議会につきましては、今年度末で終了ということで、新年度から第5期がスタートします。第5期の会員の皆様方には、次回、7月下旬頃に令和4年度生駒市立病院事業報告書について実施状況調査を行い、ご意見をいただく予定としておりますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上でございます。

【小紫会長】 本日の案件は全て終了したのですが、第4期が今回の会議で終わりとなります。会員の皆様におかれましては、引き続き第5期もお願いをする方もおられれば今回一つの節目でこの会議で最後という方もおられます。コロナ禍を含めて大変な時期に当会の会員として様々なご意見をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また、退任される方も引き続きお力をいただく方も、変わらず市立病院へのご意見を賜り、また応援団としてしっかりとお力添えをいただきますようお願いしたいと思います。

特に、山上会員におかれましては、市立病院の開院当初から8年。一番長くご指導いただ

いた会員で、本当に病院の歴史と一緒に歩んでいただきました。皆様にもお礼を申し上げますが、特に山上会員におかれましては病院と8年間お付き合いいただき、本当にいろんな形でお力をいただきましたこと加えてお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

今日も忌憚ないご意見を様々いただきましたし、市立病院も6月から9年目ということでアフターコロナの病院をしっかりとやっていく。生駒市としましても、病院と歩みを共にしていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。